

令和6年1月30日 2月 全校集会 校長講話

○それでは、相手に伝わる、気持ちの良いあいさつから始めましょう。

桜っ子の皆さん、こんにちは。

○ついこの前、新しい年になったかと思えば、今日はもう1月30日、明後日はもう2月。

今は、一年で一番寒い時期です。そんな中でも、毎朝、朝マラソンやなわとびを頑張つて、体を鍛えている桜っ子の皆さん、とても立派です。格好いいです。そんな桜っ子の皆さんにも、冬の寒さにも負けないように、私も体を鍛えていきたいと思ひます。

○さて、来週の火曜日、2月6日の1時間目には、「ありがとう集会」があります。普段、桜っ子の皆さんが、安心・安全で楽しい学校生活ができるよう、さまざまな面でご協力いただいている皆さんに感謝の気持ちを表す会です。そこで、今日は「ありがとう」という言葉から、少し考えてみたいと思ひます。

○「ありがとう」は、「ありがとうございます。」の一部を省略して言う言葉なのは知っているとありますが、この「有難うございます」は、漢字で、このように書きます。

この「有難う」は、「有難い」の形を変えた言い方なのですが、「有難う」「有難い」は、「そこに有ることが難しい」つまり「めったにないこと」という意味になります。

○反対の意味の言葉を考えれば、もっと分かりやすくなると思ひますが、「有難う」「有難い」の反対の意味の言葉は、「当たり前」です。

○ここで少し、話題が変わりますが・・・

○お正月の1月1日に石川県能登半島地方で、大きな地震があり、とても多くの命が犠牲になったり、避難生活を強いられたり、というのを皆さんもニュースで見たと思ひます。

○被害に遭われたすべての皆さんに心からお悔やみとお見舞いを申し上げたいと思ひます。

○そして、石川県では、ひと月たった今でも、電気や水道などの「ライフライン」が復旧していない地域があります。

○皆さんの住んでいるこの春日部市では、スイッチを入れれば「当たり前」のように電気や暖房がつき、蛇口をひねれば「当たり前」のように水が出てきます。

○でも、石川県の方々にとっては、それは少しも「当たり前」ではない。電気も、水道も、とても「有難い」ものです。そして、それは、私たちにとっても本来同じように、「有難い」もののはずです。

○このように、普段「当たり前」と思ってしまうものも、実は「当たり前」ではなく「有難い」ものだと、感謝しながら生きていくことが必要です。

○毎朝、桜っ子の登下校の安全を見守るために道路などに立ってくださっている「ボランティア」の方や「交通指導員」さんをはじめ、さまざまな形で桜川小に協力してくださっているすべての方々の行いは「当たり前」では決してなく、とても「有難い」ことなのです。

○人はみんな、そのように「有難い」自分の周りの人、周りのものがあって、今、この時を生きることができます。そのように考えると、本当にさまざまな人との出会いは奇跡の連続であり、そこには「有難さ」があふれていると思えてきませんか？

○これからは、「いつもそこにあるから、いつもそこにいるから」という理由で「当たり前」と思ってしまうことも含めて、身の回りのすべてのもの、すべての人に感謝して、「ありがとう」という言葉を、心を込めて言える、そんな素敵な人になってほしいなど願っています。

○そして、「ありがとう集会」では、心を込めて「感謝」の気持ちを、「ありがとう」の言葉を、一人一人が表すことのできる「素敵な会」にしていきたいと思います。

○ということで、2月もみんなで頑張っていきたいと思います！！ お話を終わります。